

次世代研究スーパースター養成プログラム

(実施期間：平成 18～22 年度)

実施機関：九州大学（総括責任者：有川 節夫）

プロジェクトの概要

若手研究者に自立して独創的な研究に専念する機会を与えるため、テニュアトラック制度を前提とした支援育成制度を確立することを目指す。この制度は、まず学内から新領域開拓を目指した若手研究者養成プログラムを募集する。次いで、このプログラムに適した優秀な若手研究者を国内外から公募し、スーパースタープログラム（SSP）学術研究員として雇用する。この研究員に対しては、厚待遇及び十分な研究環境を提供しつつ、他からの干渉を排除し自立して研究を行えるようにする。支援策として外部有識者によるヒアリング及びアドバイスなどを行う。養成期間終了後に、研究成果・自立性・将来性などについての審査を経た上で准教授として採用する。このような施策を通じて、各部局の組織面・意識面の改革を押し進め、また教員流動化・新領域開拓を促進することで、研究活動の活性化を目指している。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

従来の小講座制が内在させていた新分野開拓の停滞などの問題意識に基づき、学内公募方式によって研究組織改革などに関する部局間の競争原理を働かせ、テニュアトラック制（以下、「TT制」という）導入部局を決定し、それを支援するというユニークな手法が有効に作用しており、また自己資金を活用した人文社会分野への拡大も行っていることは評価できる。今後は、本取組の経験を踏まえ、テニュアトラック若手研究者（以下、「TT若手」という）の公募・任用段階でのセーフティネットの開示を期待する。

- ・**目標達成度**：3つの目標のうち研究組織改革（小講座制廃止の糸口）では成果を挙げており評価できる。しかし、優秀な若手研究者を育成する点では TT 若手の受入れ予定部局間に差があり、優れた TT 制を実施している部局をモデルにするなどの全学展開を期待する。
- ・**国際公募・選考・業績評価**：TT 若手の選考・採用と評価・審査とは別個の体制で実施され公平性・透明性が担保されており評価できる。しかし、TT 制における人材の多様性確保については十分ではなく今後の改善を期待する。
- ・**制度設計に基づく実施内容・実績**：外部評価委員がメンターを兼ね定期的に面談し、優秀な TT 若手の育成に成功しており、外部評価委員会が TT 制の改善についても指摘・勧告し、その実施によつて的確に PDCA サイクルに基づいた改善を行ったこと及び自主経費による文系も含めた若手研究者任用を前倒しで行ったことは評価できる。しかし、TT 若手全員を「高等研究院」

に所属させ統一的な育成を企図しているものの、配属予定部局によってテニユア審査不合格者の処遇が異なっていることは、今後の TT 制継続の途上での十分な配慮を期待する。

- **制度設計に対するマネジメント**： TT 若手の選考・審査において、他の部局の教員が“外部委員”として参画することは、実施部局以外での新規採用人事の選考・審査プロセスと基準に波及するとともに TT 制導入に対する理解を深めることにもなり評価できる。また、平成 23 年度から導入予定の、自己改革を推進する部局に優先して教員を配置する「大学改革活性化制度」の活用などによって、TT 制度の全学への普及・定着を期待する。
- **実施期間終了後における取組**：「高等研究院」を活用した TT 制の継続が明確となっており、他の若手研究者育成システムにも九大方式（SSP 方式）を活用していることは高く評価できる。
- **中間評価の反映**：女性・外国籍研究者任用について、新たな外部資金などによる体制の整備が着実に実施されており評価できる。